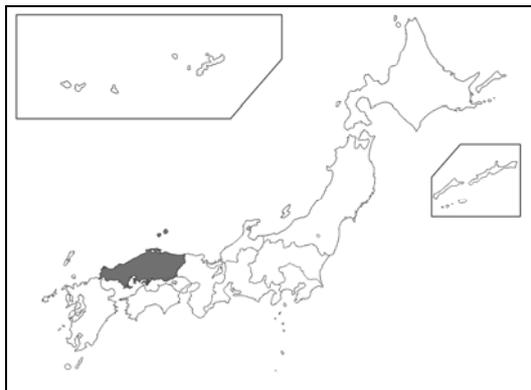


(8) 中国



中国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる。

- ・ 鉱工業生産は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

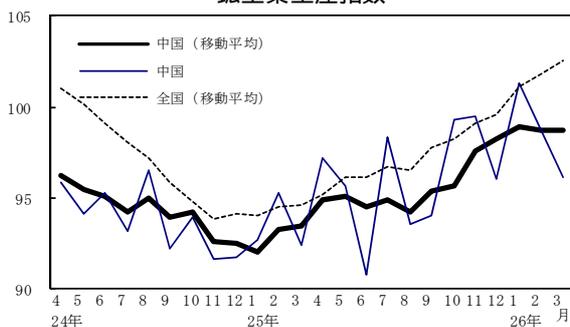
	前回 (平成 26 年 2 月)	今回 (平成 26 年 5 月)
景況判断	緩やかに回復しつつある	緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる
鉱工業生産	持ち直し	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる
個人消費	持ち直し	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている
住宅建設	大幅に増加	おおむね横ばい

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる

1～3月期には、輸送機械は、新型車効果等からやや増加した。化学は、伊予灘地震により二塩化エチレン等の事業所が停止した影響もあり減少した。はん用・生産用・業務用機械は、農機具など一部に駆け込み需要もみられ増加した。鉄鋼は、自動車向け等の生産が高水準で推移したこと等から増加した。電子部品・デバイスは、スマートフォン向け等の部品が、新製品発表前の端境期となり減産したこと等からやや減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

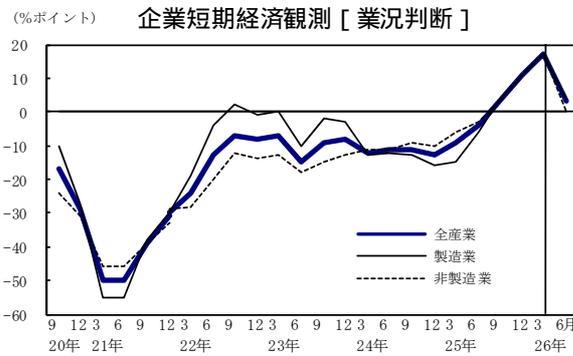
	付加価値ウェイト	生産				
		10~12月期	1~3月期	1月	2月	3月
輸送機械	23.5	8.9	0.4	3.4	▲2.4	2.0
化学	16.4	10.5	▲3.4	2.8	▲3.1	▲8.2
はん用・生産用・業務用機械	11.2	▲2.6	1.1	11.7	0.1	▲7.1
鉄鋼	7.7	3.0	2.6	5.2	▲2.6	▲4.2
電子部品・デバイス	7.1	1.5	▲0.1	2.0	▲7.8	4.7
鉱工業	100.0	3.0	0.5	5.4	▲2.5	▲2.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 1～3月期、3月は速報値。

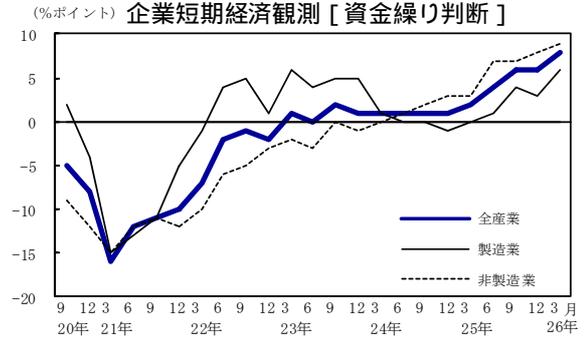
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。  
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

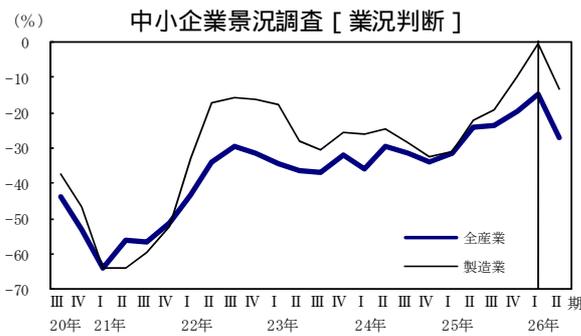
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。26年6月は予測。  
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月は新・旧基準を併記。

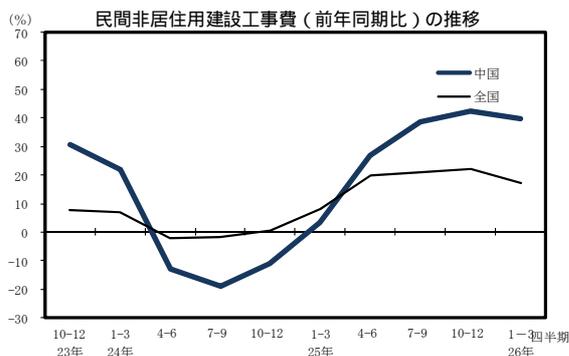


(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。26年II期は見通し。

② 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「小売業からは4月に入ってから販売数量が落ちている、運送業からは3月は忙しかったが、4月は物流量が減ったなどの報告を受けている。取引先の様子からみると景気はやや悪くなっている(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	25年度実績見込み	26年度計画
全産業	6.3 (3.6)	2.0
製造業	▲5.8(▲1.1)	10.5
非製造業	24.8 (9.6)	▲7.9

(備考) ( ) は前回(12月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている。

### 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比▲1.5%、2月は同2.0%増、3月は同5.3%増となった。

### 大型小売店販売額

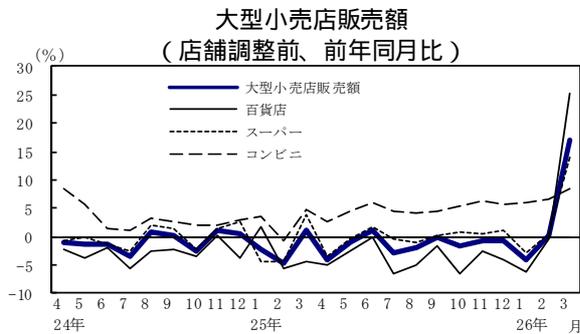
百貨店は、1月は衣料品が振るわなかったこと等から前年を下回った。2月は時計など高額品の販売が引き続き好調を維持したものの、衣料品や飲食料品等が昨年と比べて振るわなかったこと等から前年をやや下回った。3月は駆け込み需要による化粧品や身の回り品等のまとめ買いが発生したほか、春物衣料にも動きがみられ前年を大幅に上回った。

スーパーは、3月に駆け込み需要で多くの商品にまとめ買いがみられ、前年を上回った。

### 景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

中国地域の家計動向関連DIは、32.7となり前月より24.7ポイント低下した。

「3月が好調であったので、4月の落ち込みは想定していたが、予想以上に厳しい。客単価は前年比95%とあまり落ちていないが、販売数は80%と大きく前年を下回り、増税後の買い控えが顕著に表れている (百貨店)」など、「やや悪くなる」とする回答が増加した。

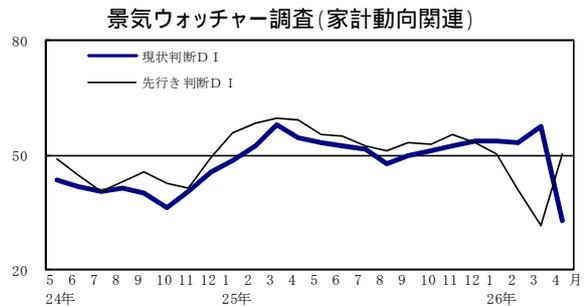
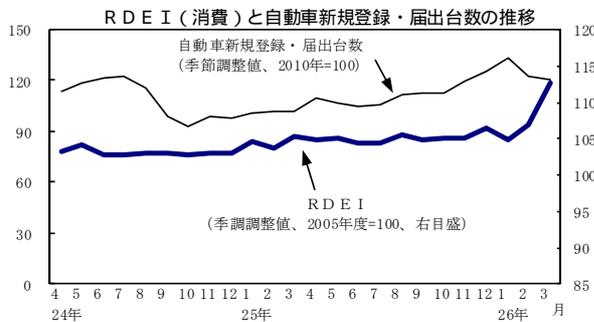


	26年1-3月	26年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	2.5	▲1.5	2.0	5.3
大型小売店 (*2)	4.4	▲4.1	0.3	17.1
百貨店 (*2)	5.8	▲6.3	▲0.3	25.2
スーパー (*2)	4.0	▲2.7	0.5	13.9
コンビニ (*2)	7.1	6.1	6.6	8.5
乗用車 (*3)	22.2	31.6	20.1	18.3
(季節調整値) (*3)	4.9	6.3	▲8.1	▲1.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

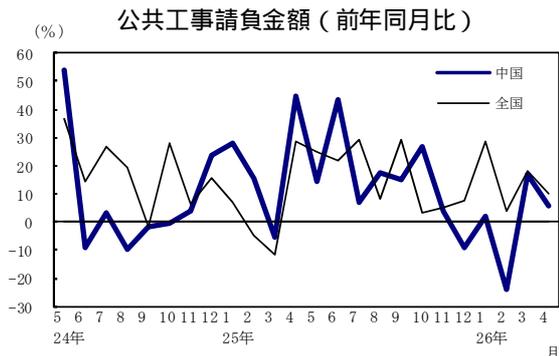
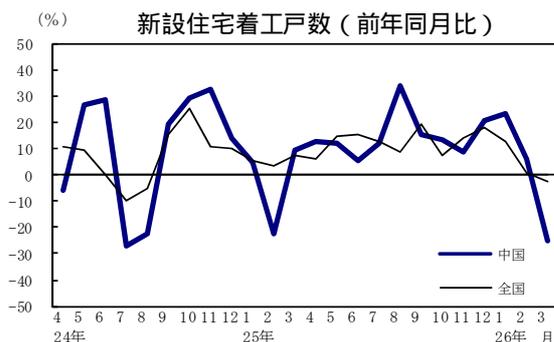
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段)前年同期(月)比 (%)



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が前年を下回ったことから、全体では概ね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

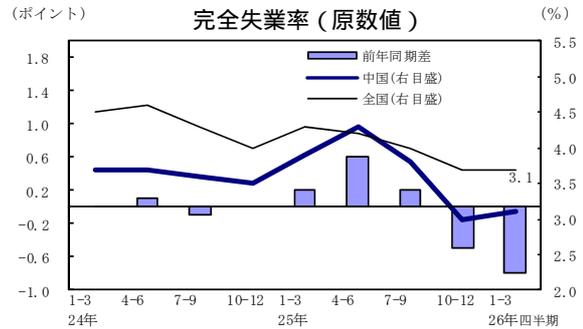
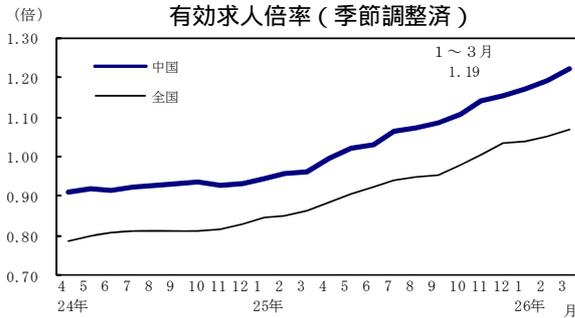


### 3. 雇用情勢等

#### (1) 雇用情勢は着実に改善している。

##### 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



#### 景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

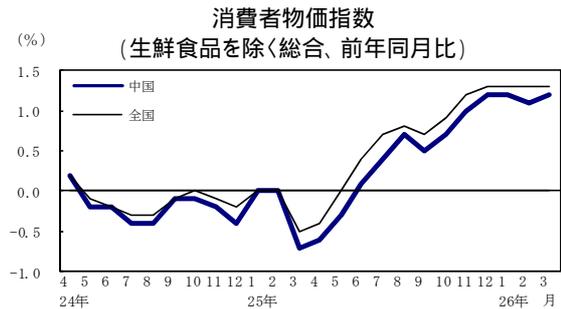
「依然として企業の採用意欲は高いものの、一時期ほどの伸びはなく落ち着いてきている（民間職業紹介機関）」などの回答がみられた。

#### (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

#### (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

##### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年4-6月	7-9月	10-12月	26年1-3月	26年4月
倒産件数 (前年比)	126 7.7	121 ▲10.4	111 ▲15.9	122 ▲3.9	41 ▲2.4
負債総額 (前年比)	719 197.3	177 ▲9.7	206 ▲11.9	213 ▲19.6	68 86.8



#### 景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

##### <現状>

- 海外からの来客数が増加して宿泊は順調であるが、駆込み需要の反動で婚礼件数とレストラン利用客数が大幅に減少している（都市型ホテル）。

##### <先行き>

- ボーナス支給までは、景気は横ばいかマイナスと想定するが、ボーナス支給後は夏に向けて個人消費も若干上向きになる（旅行代理店）。

#### 景気ウォッチャー調査 (合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

